

図書館の未来を考えるオンラインミーティング 開催結果概要

第2回

01 開催概要

「(仮称)中央図書館基本構想」の策定に向け、今後の豊中市立図書館及び(仮称)中央図書館のあるべき姿について話し合っていたるためのミーティングとして、第2回は「図書館の役割・可能性」をテーマに9月25日(金)19:00～20:30に開催し、9名の方に参加いただきました。

当日のプログラム

1. 開会・前回ふりかえり	19:00～19:05
2. 市立図書館概況ならびにテーマ・トピック案説明・質疑	19:05～19:10
3. トーク時ルール説明	19:10～19:15
4. トピック1 (全体セッション) 社会の変化を踏まえて必要とされる図書館とは？	19:15～19:45
5. 休憩	19:45～19:50
6. トピック2 (グループセッション) 多くの市民に図書館の価値や意義を理解してもらうには？	19:50～20:25
7. 閉会	20:25～20:30

02 意見等概要

(1) 市立図書館概況ならびにテーマ・トピック案について

参加される皆さんの今後の議論の参考としていただくため、はじめに事務局から市立図書館の概況や他市との比較結果について説明しました。また、前回の結果を踏まえて事務局で再検討した各回のテーマ・トピック案をお示したうえでご質問などもお受けし、今後皆さんで話し合っていたいただく内容を下表のとおりとしました。

【テーマ・トピックについての事務局案 (修正案)】

第2回	図書館の役割・可能性 <ul style="list-style-type: none"> 社会の変化(デジタル化・人口減少・少子高齢化・グローバル化など)を踏まえて必要とされる図書館とは？ 多くの市民に図書館の価値や意義を理解してもらうには？
第3回	中央図書館を中心としたネットワーク構築 <ul style="list-style-type: none"> 中央図書館以外に、どこに、何があればよい？(利便性を上げるには？自治体間・他施設・他部局との連携は？) 中央図書館を中心としたネットワークでの地域との関わり方は？
第4回	司書の専門性/資料や情報の収集・提供・保存のあり方 <ul style="list-style-type: none"> 専門職としての司書に求められる役割とは？ 豊中の図書館ではどのような資料を収集・保存すべきか？ デジタル化が進む中で、図書館の情報提供のあり方は？



【テーマ・トピック案に対する参加者からの質疑と事務局回答の概要】

Q 市民1人あたり図書館事業費の縮減方法はどのタイミングで議論するのか？

第3回で(仮称)中央図書館整備や市内各館の再配置・機能再編を通じたサービス水準維持とコスト縮減の両立について考えていただく際に議論いただきたい。また、第2回でもコスト面を意識したご意見を伺いたい。

(2) トピック1：社会の変化を踏まえて必要とされる図書館とは？

今後の豊中市立図書館の役割・可能性を考えていただくための1つ目のトピックとして、デジタル化や人口減少・少子高齢化、グローバル化といった社会の変化が進む中で必要と考えられるあり方や役割について、9名全員で話し合っていました。意見の概要は以下のとおりです。（※後日提出された意見も含まれます。）

知識・情報 を集積

- コストをかけて利用者満足度や知を追求し、インターネットや漫画喫茶からは得られない資料・情報を提供（※大衆的な図書館との2本立て）
 - 知に特化し、個室ではなくオープンスペースで市民が自由に参加できる市民講座（健康講座など）を開催することで知の提供機能を強化
 - 外国籍の市民や障害のある市民、デジタル機器が使えない市民を含む誰にでも必要な情報を提供
- 市民の幸せのために必要なサービス（著名人が登壇する講演会や就職支援講座の開催など）を何でも提供
- 日本語非母語話者や語学学習者に向けた外国語資料コーナーを設置
- 大阪のベッドタウンとして発達した豊中市の市民の仕事や家庭、生活に関する視点を持ち、積極的に関与



暮らしを 支える

ICT化 に対応

- ICT関連事業（PCの館内貸出や個人・団体向けPC・オンライン作業用スペースの提供など）を中心に据えることで市内公共施設を牽引
- デジタルガバメント宣言も踏まえて情報弱者を救うための情報リテラシー講習会などを開催／デジタル・デバイド対策に配慮
- 電子図書館としての機能を構築し、電子書籍を提供
- 企画展などの情報を誰でもアクセスしやすいデジタル形式で発信



- 将来のある子どもたちの格差を埋めるために学校ではできない多様な仕掛け（宿題支援・ICT活用支援・実験スペース提供、学習障害児支援など）を構築
- 学校ではあまりできないこと（幼児のオンライン学習など）を支援

子ども向け サービスを充実

若者向け 空間を充実

- 幼児・児童・高齢者向けの空間だけでなく、現在の市立図書館をよく利用している20～30代の市民を対象とした空間（自習スペース等）も提供
- 滞在型図書館として、未利用層を呼び込むカフェではなく、講演やイベントが開催可能なホールを併設
- 本の貸し借りだけでなく様々な活動を可能とする機能（市役所・託児・会議室・避難所など）を併設
- 公民館・生涯学習センターを併設

他機能を 併設

効率的に 運営

- セルフ化（貸出・予約等）やSNSによる情報発信などを通じて効率化・省コスト化・大衆化（※利用者満足度・知を追求する図書館との2本立て）
- 書庫出納やカウンター対応を効率化するため、資料をデジタルアーカイブ化、申請書等をペーパーレス化
- 国際交流センターと分担した外国語資料の収集
- 中央図書館に機能を集約し、行事などを分館へリモート配信



(3) トピック2：多くの市民に図書館の価値や意義を理解してもらうには？

2つ目のトピックとしては、現在の豊中市立図書館の利用者層が限定的であることなど踏まえ、より多くの市民に知ってもらい、使ってもらい、親近感を持ってもらうための方法について、2つのグループに分かれてお話しいただきました。それぞれのグループで挙げられたご意見の概要は以下のとおりです。（※後日提出された意見も含みます。）

グループ1で挙げられた主な意見

存在や魅力を知ってもらう

- 所在地や最寄り駅からの距離、提供しているサービスなどがまとまったムック本のよ
うな資料を作成
- 市立図書館各館の特徴や口コミを SNS (twitter 等) や市報で発信
- 利用者自身が能動的にクチコミ (自習室が使える、ママ友ができる) 等の情報を得たり
発信したりすることを促す仕組みを構築
- 若者に向けてクチコミをうまく活用
- 大学図書館のように若者向けに SNS (Twitter 等) で情報を発信
- 特定の館しか利用しない市民に向けて、各館の取組を発信

サービス・施設を使ってもらう

<若者向け>

- 図書館職員とコミュニケーションを取りたくない若者や、紙の本を好まない若
者のため、セルフサービスですぐに貸出・予約手続きや情報の入手が可能な図
書館を市内のあちこちに配置
- ファーストフード店のように誰にでも使いやすい利便性の高い図書館とする
ことで、本よりも SNS を見る方が楽しい若者のニーズに対応
- 本を読むだけでなく調べ学習をする場として、自習室を拡充
- 内部の様子が見え、個人だけでなく数人でも使うことができ、司書に相談したり、
他利用者と出会ったりすることも可能な自習スペースを設置
- 館内で CD・ビデオ等の視聴環境を提供
- 大学受験を機に利用が減る世代に対し、近隣大学学生による企画展示や廃棄
本のフリーマーケット、大学生・他公共施設と連携したイベントを開催
- 高校生が立ち寄りやすい催し (部活動の発表など) を開催
- 豊中のリレーエッセー関連資料を展示するほか、名誉市民コーナーに B' z 松
本孝弘氏のコーナーを加えて充実

<全般>

- 滞在型の図書館として、居心地の良い空間を設け、木製の家具や低書架、座り
心地の良い椅子などを配置
- 生涯学習センターなどと連携して多機能化を図るほか、市民活動の成果発表
といった集客性の高い催しを開催

企画や運営に関わってもらう

- 大学生サポーター等、市民が運営に参加できる制度を創設
- 既存のしょうない REK の活動 (ボランティアが市立図書館の廃棄本をリサイ
クル販売) なども踏まえて地域と連携
- 個人を大切に作る施設として、サポーターだけでなく、個人単位の市民から
も色々な提案を受け入れて共に実現する姿勢や仕組みを確立
- 市立図書館の発行物やキャラクターを作成してくれる市民 (自費出版物を販
売しているような 20 代前半から 30 代の若者など) を公募
- 市民が企画や活動をするための空間や相談窓口を設置

グループ2で挙げられた主な意見

存在や魅力を 知ってもらう

- 資料や情報が洪水のように溢れている中で、本当の情報を見極めるために必要な資料・情報(多様な観点に立つ資料・情報など)を収集していることを展示などで周知
- 幼稚園や小学校で時間を設け、図書館のことを深く分かりやすく説明
- 20~30代の市民に対して、市立図書館及び豊中市のHPやSNSにインパクトのある記事を掲載
- SNSを利用していない高齢者のために新聞を通じて情報を発信
- ニーズが小さいと考えられる取組でもとにかく発信するほか、それらをオープンスペースなどで開催することでも魅力を発信
- 広報をHPやSNS(Twitterなど)のみで行うのではなく、YouTubeのチャンネルでも市立図書館の情報を発信
- ただで本が借りられるというサービスそのものの認知を変えることが必要

サービス・施設を 使ってもらう



- 市立図書館に行ってみたいと思うようなワクワクする仕掛けで他県からも集客
- 本を借りて読むだけの場所という印象を拭うため、司書が2・3人ずつテーブルに常駐し、利用者からの相談に知り合いのような距離感で対応
- 本の内容をノートやマインドマップにまとめる共有型の読書会を開催
- 図書館や本に興味のない市民に向けて、本の貸し借りだけでなく機能(併設の市役所・カフェ・レストランなど)を提供
- 色々な施設と繋がることのできる施設として、千里文化センターコラボや(仮称)南部コラボセンターのように複合施設内で整備
- 大きなニーズではなく小さなニーズ(例えばお酒など、マニアックな人たちが集まるニーズ)を狙った事業(講座など)を企画
- 普段市立図書館を利用していない市民を呼び込むため、図書館では静かにするという既存概念を壊し、「今日は騒ぐ日」などを設定

企画や運営に 関わってもらう

- 施設やシステムだけでなく人と人のやり取りも基本に据え、人手が足りない場合には、ボランティアやサークルの協力も得つつ貸本屋的側面を少しずつなくし、利用者との共通の目的を見据えたサービスを提供

その他 – 参加者おすすめの事例とその特色 –

- 茨木市立図書館：外部がガラス張りで見える学習席の机がある「見える学習席」のような空間を提供
- 岡崎市立図書館・大阪府立中央図書館・京都市立中央図書館：ホール等を含む複合施設として整備
- 大阪市立図書館・川西市立中央図書館・堺市立図書館：電子書籍を提供
- 川端康成文学館：追手門学院大学の学生と連携し、展示を企画
- 吹田市立山田駅前図書館：学生などが運営に参加する制度(図書館 YA サポーター)を創設
- 八日市図書館：自然環境を考えるコーナー、無農薬コーヒーが飲める憩いコーナーなどを設置

※その他、南相馬市立図書館、東北大学附属図書館、ニューヨーク公共図書館、ソルナ市立図書館(スウェーデン)なども話題に挙がりました。

次回のご案内

日時： 令和2年10月23日(金)
19:00~20:30

お問い合わせ

豊中市教育委員会事務局読書振興課
TEL : 06-6843-4553 (岡町図書館内)
Email : okamachito@city.toyonaka.osaka.jp